

# 在宅看取りにおける意思決定支援

最期まで自分らしく生きるために

医療法人健康会 訪問看護ステーションいしかわ

管理者 西岡 陽子

# はじめに

- ・多死社会を迎えるわが国において、在宅医療を強かに推進しようとしている。
- ・国民の希望に応じた看取りの推進。
- ・様々な問題から、利用者が全て希望通りの場所で最期を迎えられているという状況でない。

# 国民の希望に応じた看取りの推進

## ターミナルケア療養費 算定要件

ターミナルケアの実施については、「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」等の内容を踏まえ、患者本人及びその家族と話し合いを行い、患者本人及びその家族等の意思決定を基本に、他の関係者と連携の上対応すること。

ターミナルケアの実施のあたっては、居宅介護支援事業者と十分な連携を図るよう努めること。

# 人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン

## ・人生の最終段階における医療とケアのあり方

- ①医師など医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされ、それに基づいて患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人による決定を基本とした上で、人生の最終段階における医療を進めることが最も重要な原則である。
- ②「人生の最終段階における医療」における医療行為の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為の中止などは、多専門職種 of 医療従事者から構成される医療・ケアチームによって、医学的妥当性と適切性を基に慎重に判断すべきである。
- ③医療・ケアチームにより可能な限り痛みやその他の不快な症状を十分に緩和し、患者や家族の精神的・社会的な援助も含めた総合的な医療とケアを行うことが必要である。
- ④生命を短縮させる意図をもつ積極的安楽死は、本ガイドラインでは対象としない。

▶人生の最終段階における医療とケアの話し合いのプロセス

患者の意思が  
確認できる



患者と医療従事者とが十分に  
話し合い、患者が意思決定を行う



人生の最終段階における医療と  
ケアの方針決定

十分な  
情報の  
提供

家族が患者の  
意思を推定できる



患者の意思が  
確認できない



患者の推定意思を尊重し、  
患者にとって最善の治療方針をとる



患者にとって最善の治療方針を、  
医療・ケアチームで慎重に判断  
(※家族がいる場合は十分に話し合  
う)

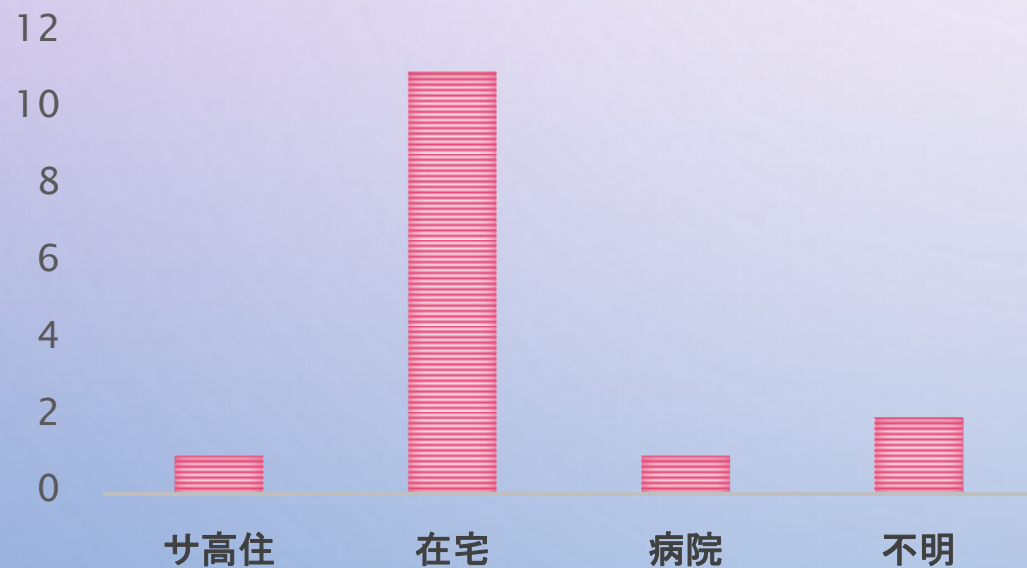


・家族が患者の  
意思を推定できな  
い  
・家族がいない

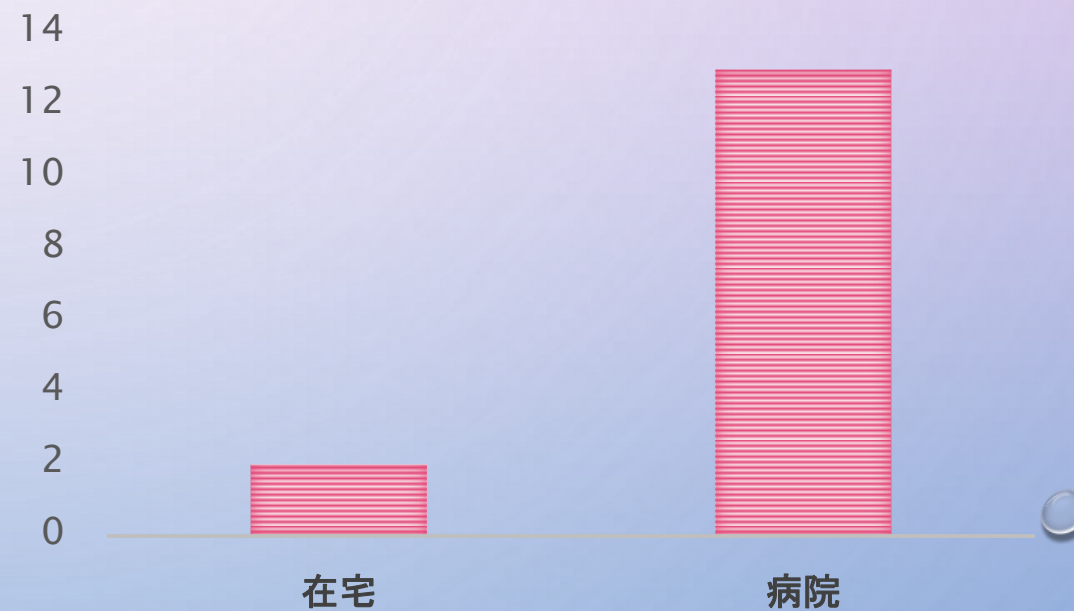
・病態などにより医療内容の決定  
が困難  
・家族の中で意見がまとまらない  
など  
の場合  
→複数の専門家で構成する  
委員会を設置し、  
治療方針等の検討や助言

# 本人・家族の意思の違い

## 本人の意思



## 家族の意思



平成28年度永眠終了者39名調査

在宅看取りに

どんな印象をお持ちですか・・・？

- 急変したらと思うと不安が大きい
- 家族の負担が大きい
- 大切な家族が苦しむ姿をみるのはこわい。
- とにかくどうなるのか分からず不安・・・ などなど。

不安

## アンケート結果

訪問看護を利用することで安心感がえられましたか？

- ・ 大変安心できた 77%      安心できた 8%      無記入 15%

### <利用者の声>

- ・ 色々と助言して頂き、心の支えになりました。
- ・ 予定日以外でも、様子がおかしいと思い電話すると、すぐに来られて、先生に連絡し、すぐに処置して下さった。すばやい対応に感謝しています。
- ・ 家族の身体のことにも心配して優しくしてくれてありがたかったです。
  - ・ 家族にできないことをしていただきました。
  - ・ 手や足などきれいにしていただきありがとうございました。
- ・ 最期のときも、体を全部きれいにしていただき、家族も非常に満足しています。



# 在宅看取りの現状と支援

- 看取りを決意(受け入れる)することは、勇気がいること。  
冷静に見える家族でも、不安は大きい。第三者の意見が欲しくなる。  
できれば意思決定の瞬間から訪問看護が同席する。
- 決意は揺らぐ。揺らいでもいい。  
どうしても大変になれば入院という選択肢もある。  
実際、在宅看取りを決心してから入院へと希望が変わることは少ない。
- 介護者が少なければ、介護負担は大きい。  
通所やショートなどに行けなくなることも多く、介護が常に必要な場合も多い。
- もしかしたら、このまま元気になるかもと思う瞬間がある。  
しかし、調子が良いときでも、折に触れて、現実的な話をする事。

# 在宅看取りの課題

- 意思決定を支援することの重要性の認識  
早い段階での関わりが、本人・家族のこころの支えになる。
- 在宅看取りは当たり前になってくる。  
多死社会において、今よりもっと増えると思われる。  
介護する側の意識もかえていかなければならない。
- 生死観について考えること。  
無力な自分を認めて、できることを考える。